

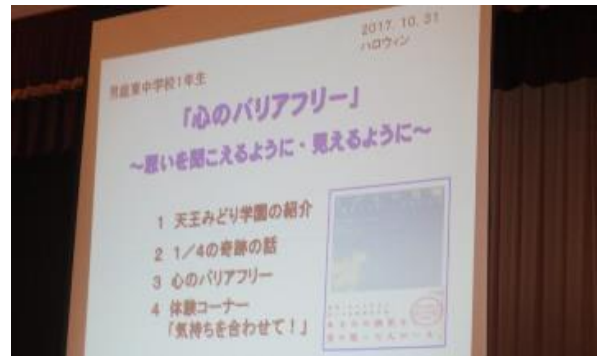
「心のバリアフリー」思いを聞こえるように・見えるように

障害理解の出前授業 ～ある中学校での取り組みから～

今年度も、地域の小学校、中学校、高等学校において、障害理解の出前授業を約40回実施しました。今回は、中学校1年生を対象に実施した出前授業について、授業後の感想を取り上げながら紹介します。

<授業のねらい>

「障害のある人と実際に関わるポイントや相手の気持ちを考えて行動する大切さを知る」



○この授業のねらいです。

天王みどり学園について紹介しながら、

「1 障害のとらえ方 2 バリアフリーとは 3 体験しよう」などの内容で進めていきました。(詳しくは天王みどり学園HP参照)

<生徒の感想>

- ①「障害への認識を新たにした」
- ⇒②「勝手な思い込みで判断せず、相手の立場や気持ちを考える姿勢を大切にしたい」
- ⇒③「障害の有無に関わらず、人に接する際の態度を見つめ直したい」

○感想として多かったものを挙げてみました。障害への認識や捉え方が深まり、関わり方についても具体的な行動の仕方が分かり、これまでの自分の姿を見つめ直したという感想が多かったです。さらに、普段の学校生活での友達との関わり方にまで考えを広げて深めていく声も多く聞かれました。

裏面に続きます→→→



＜小学校・中学校と継続した指導＞

「小学生のときも出前授業は体験したことがありましたが、中学生になって改めて体験してみると、『気付く、声を掛ける、動く』ことの意味が、よく分かったような気がします」

○小学校での障害理解の取組を、中学校でも引き続き実施することで、これまでの経験を振り返りながら、さらに新たなお互いの意見や考えに触れながら、障害についての理解を深められました。

＜事後指導＞

「自分がいやな事を人にしないで、自分がうれしい事を人にしよう！」

○ある日、日直の生徒が、教室の横の黒板に「一日の目標」として書いた言葉だそうです。出前授業後に、「相手の気持ちになり、思いやりの心をもって接する意識を高め、それが行動に結びついていくよう指導を進めたい」と担当の先生から話がありました。この学校では、このような生徒発信の言葉を、出前授業で学習した内容と結び付けて学年通信等でも取り上げるなどしながら、タイミングよく評価していくことを大切に積み重ねております。



＜学校のニーズに合わせた出前授業の活用を＞

男鹿潟上南秋地区（および秋田市北部）にある学校からの障害理解の出前授業の依頼は、年々増加しています。小学校では、1年生から6年生まで、教育課程に位置付けて継続的に行っている学校も増えてきています。

しかし、中学校での取り組みを見てみると、まだ単発的なところが多く、実施校もそれほど多くはありません。

学習指導要領の改訂も含め、現在、共生社会の形成が強く言われ始めています。多様な在り方を理解し、お互いを尊重する社会の実現のためには、学校も一つの小さな社会であるとすれば、学校での共生社会の実現がその第一歩になるようにも思います。

今回の例のように、出前授業を、多感な生徒たちが集う学級づくりにも効果的に活用している学校もあります。

学校のニーズに合わせてながら、是非、障害理解の出前授業をご活用ください！

お問い合わせは…

Tel：018-870-4611

Fax：018-870-4612

E-mail：midori-s@akita-pref.ed.jp

秋田県立支援学校天王みどり学園

教頭 根 義鎮

地域支援部 小川 成樹